

事務局 資料の説明

委員長

事務局からただいまご説明がありました。まず1点目、計画の策定の趣旨につきましては、質問やご意見等はございませんでしょうか。

委員

PDCA について、案が書いてありますが、3年間で終わるのですか？その後の見通しは？3年間の後はどうなるか。

事務局

あくまでこれは第1期の大山崎町自殺対策計画としてこの3年間させていただくこととなっています。5年ごとに地域福祉計画の見直しとあわせて、実施できたかできていないのか、数値目標等入れられるものがあれば、随時、各課又は各部署において自殺対策ということ念頭に置きながら、寄り添った支援ができるような形の実施をしていただく。それでPDCAを回っていきます。

委員長

よろしいでしょうか。

では趣旨につきましては、皆様ご理解いただけたというところでよろしいでしょうか。

では、2つ目ですけれども、先ほどの質問・ご意見と合わせまして、大山崎町の自殺対策計画の件でございます。

まず、先ほどのご説明の中で、1点目として上がりました、P.12ですけれども、そちらのほうの「2地域自殺実態プロファイルにおける大山崎町の自殺の現状」という項目の「1)地域の自殺の特徴」というところでございます。こちらの「地域の」という言葉を「本町の」というところのご提案が事務局からありました。

この件につきまして、ここを「地域」とするか、または「本町」。こちらは大山崎町のことですので「本町」にするかという、言葉の変更というあたりですが、こちらにつきましていかがでしょうか。

委員

「本町」で。

委員長

はい、ありがとうございます。

地域というよりも大山崎町のことですので、「本町」のほうが良いというご意見がありま

したが、他の皆様方がいかがでしょう。

では、「本町」でよろしいでしょうか。事務局はいかがでしょう。「本町」のほうで修正するということがよろしいですか。

事務局

はい。

委員長

こちらの点はよろしく願いいたします。

あとは、質問の策定について意見というところ踏まえまして、何かご意見ご質問等ございましたら、日々それぞれのお立場から忌憚のないご意見を頂けたらと思いますが、いかがでしょうか。

委員

この対策計画を読ましてもらいましたが、今取組内容に詳しくは書かれておりますが、悩みをもって今にも死を覚悟している人、あるいは、その人自身がどこに相談したらいいかわからない人、死ぬ直前の人がいると思うのですが、どこに相談したらいいのか。町の一方的な支援の記載はあるが。この対策計画には「住民目線」の対策が載っていないように思うのですが、こういうのを入れるのはそぐわないのか？

委員長

はい。ありがとうございます。この計画については「住民目線」で策定を試みていくべきでないかというようなご意見ですね。これにつきましては、事務局いかがでしょうか？

事務局

今現在、役場のほうで窓口等対応をしている中で、いろんな相談の機関であるとか、自殺の相談という限定したわけではないんですけど、保健センターであれば、「こころとからだの健康相談」等をさせていただいたり、「ゲートキーパー養成講座」をこの11月にさせていただいております。こちらは京都府と連携しまして、まず身近にいる人が自殺の企図や危機的状況に陥りそうな方を察知していただきまして、ここに相談できる場所があるよと繋げてもらう。そういうゲートキーパーを養成させていただいて、そういう方たちをできるだけ増やして、行政の支援だけではなく、「待っている」だけの相談ではなくて、あっち行ってみたらということでこちらから働きかける。また、地域の住民さんにも助けていただきながら、自殺対策につながるような取り組みを進めていきたいと考えております。

委員

そのように感じました。

委員長

多分もう一つは、本人がどこに声を掛けたいのかというような本人目線の対策という意味合いも持っているのかと思ったのですが、その辺りはどうですか。

事務局

基本的には、今説明させていただきましたように、基本は役場にご相談を常時受け付けさせていただきます。内容を吟味させていただいて、どこからのアプローチがより良いのか。自殺に限らず福祉等に関しましても同様ですが、自ら命を絶つというのはなかなかその方の状況はかなり深刻な状況であって、心理的な状況もなかなか難しい中で、その方のより良い相談先があればそこに行っていただいて、その人を通じて相談であるとか、専門機関への相談など繋げていただけたらいいのかと考えています。

委員のおっしゃるより良い支援があればお伺いしたいのですが。

委員

明日でも死を覚悟した人がどこに電話をかけて心の相談とかをしていいのか、これを見てもわかりません。たくさん書いてあるけれど、どこへ行っていいのかわからない。

事務局

9月と3月は自殺対策強化月間・自殺予防週間と国が定めておりまして、大山崎町のほけんセンターだよりや広報おおやまざきにおいて、相談窓口の周知を図っているところでございます。ホームページについても、「こころの体温計」というセルフチェックや相談窓口であるとか、予防するのが前提ですが、残された家族のフォローや相談窓口の紹介に繋がるように、広報で周知を図っているのですが、なかなか触れにくい話題となっています。まずは、周知・広報していくことで、広く認めていただきながら、相談窓口が広がれば、更に予防に繋がると思います。その辺りをまず第1期は強化していきたいと考えています。

委員

電話の悩み相談的なものをもっと大きくPRするのも一つかと思えます。

事務局

P.28に相談窓口について書かせていただいておりますが、そこをもう少しよりよくという感じでしょうか。

委員

網羅しすぎて、どこへどう相談したらいいかわかりにくい。

委員長

使いやすいようにどう周知していくのかというところも含めて考えていく必要があるというご意見ですね。

委員

私も同じように思います。役場に来てね、という程度であれば、家にこもって、うつの方も多いので、行けないと思う。どこでも電話相談がありますし、24時間対応もあります。この窓口の時間だけしか対応しませんよということでは、本当に、網の目からこぼれていくので…、役場に言ったらこう繋いでいけるし、いつでも相談乗りますよって。

やっぱり話したらずいぶん違うと思うので、逃げる場をつくってあげるということで、どうい手段をとるかっていうのは、いろんなことを知っている方の知恵をもっと集めたいと思うんです。若い人にはもっと、SNSとかね。SNSに発信したらすぐ返事が返ってくるというのに救われたという話も聞きます。ちょっと表裏がある、危ない手段がありますけど。このような危険を含めて若い方の悩みの相談に乗ってあげる手段をもう少し準備しておく必要があるのではないかと思います。藁にもすがりたい思いでいると思うし、本人が出来なくても、家族が何とかしたいという思いがすごくあると思うので。

事務局

おっしゃる通り、若い方の自殺も実際多いので、そのLINEアプリで相談ができるものがあります。チラシもあるので、もっと広げていけたらと考えています。24時間対応のところもあります。京都いのちの電話とかいうものもあります。載せているんですけど、小さくて見えていないというあたりであれば、その辺をもう少し重点的に周知させていただきたいなと考えております。

委員長

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

年代によって、若干自殺者数は変わってくると思います。学校であれば、夏休み明けとか、自殺者が増えるという話を聞いたりします。かなり年代によってどう対応方法が異なります。SNSは利便性とリスクの両方の側面があるとの意見もありました。このようなことも含めて考えていかなければならないところですね。他にはいかがでしょうか。

委員

社会福祉士会に所属しているのですが、その会員の人が悩み相談の電話を受けている。かけてくる人はもう決まってるから、かけてくる人はかけていいんだと思って夜中の2時

とかにかけてくるので、当番制で夜勤をしている。かけてくる人はいいんだけど、かけてこない人はどうなってるのかとその人は思っています。私も亡くなった方と接することがあったりすると、亡くされた人の気持ちもずっと引きずっていくので、それをお伝えしていくのも必要なのかなと。言葉として、家族の方がお話しして前に出てる方はいいんですけど、引きずったまま、家族も閉じこもりがちになってる方と接したりすると、あの時救えたのではないかと。ずっと引きずって、息子さんとか亡くなったりすると、年老いてくごとに引きずり方が違い、人によってはうつになったりする。やっぱり、周りの方、ゲートキーパーとかの研修をみなさん受けてもらって、ちょっと違うんじゃないかなっていうときの声のかけ方とか学ぶことが大切ではないでしょうか。声のかけ方とか、「悩んでるんちがう？」とか極端に出ていくんじゃないかと、声のかけ方の学びとかもあります。やっぱり「ゲートキーパー」という言葉自体が重く感じて、皆さんの中に研修を受けるのをためらう方もいると思うんですけど、それに参加すると声のかけ方とか、特別のことではない普通のことを教えてもらえるので、研修とか「ゲートキーパー」の言葉を、もう少し考えて受け入れやすい研修という感じで行けたらいいかと思えます。私も何回も手伝いとか行ったので、研修の場には行くんですけど、やっぱり「ゲートキーパー」という言葉が入りづらいというか重く感じる。でも行くと、声のかけ方とか普通のことなんですね。接し方とか。だからやっぱり、もうちょっと柔らかい言葉でできないのかといつも思っています。

委員長

ありがとうございます。言える人はいいのだけれど、言えない人の対応と、あとはその周りの人たちの研修の必要性、研修のネーミングも含めて、誰でも受け入れやすい研修をするとかさらに広く、網の目が広がって支援の必要な人をキャッチしやすくなるというご意見ですね。

他にはいかがでしょうか。

委員

自殺の原因について、個人が特定されるため公表されていないということですが、11名の方の自殺の原因について具体的な内容について教えていただきたい。原因がわからずに対応はできないのではないかと。原因を聞きたい。

委員長

どのような原因で自殺があったのかわからないと、この対策の策定が難しく、この計画を作ることも難しいという意見ですね。事務局いかがでしょうか。

事務局

一つの問題だけで自殺というのは起こらずに、複合的に原因があり最終的に自殺に至る

ので、複数の原因というところで、多いのは健康問題であるとか家庭問題、経済・生活問題が主になります。

委員

健康問題は何人ぐらいですか？複合的なものもあると思いますが。

事務局

こちらでも、出されている数と原因として出されていない数もあるため、すべてを集計はできないのですが、健康問題として挙げられる数が3名。それが一番多くて、次いで2名とかになる。数字として載っていない部分もあります。

事務局

これが原因だというものはありません。資料3のP10は一般的な内容の事例として挙げられていますが、因果関係というのは様々な原因が絡みあって、自殺に至ってしまっていますので、これが大山崎町含めて他の市町村でも見受けられている原因となります。いろんな状況が付与されて、最終的に自殺に至った。特定は最終的な因果の割合としてそういうものがあったとしても、様々な状況が絡んでいることは認識しています。

委員

経済的というものにはなにがありますか。現在の福祉行政が充実した中で、経済的に自殺になることは気になります。

事務局

本町でどうかは定かではありませんが、借金というのも事例に挙がっていますので、それが因果関係とも考えられます。

委員長

ありがとうございます。委員よろしいでしょうか。

非常に複合的な問題がありながら、自殺にいたるということになっていますので、今回の計画につきましても、複合的な問題をどう解決していくのか、対応していくのかを考えていく必要があります。そのため多様な取り組みの中から対応していくという計画になっています。

他にはいかがでしょうか。

委員

自殺未遂者の方の把握できていないということですが、それこそ病院から自殺未遂者が

いた場合、町のほうに町内に未遂者がいますという連絡はないのですか。

事務局

連絡はありませんし、データとしても出されていません。

個別ケースの中で、そういう未遂歴があるという事実を把握した場合は、もちろん寄り添って対応等はしています。

委員

未遂者自体を把握できていたら、集まりとか話し合いができたりして、自殺に至らないかと思うのですが。

委員長

ありがとうございます。未然に防ぐということを考えるというご意見ですね。

委員

今の聞いてて思ったんですが、救急搬送とか、消防署で数がつかめるのではないかと思うのですが、そのような連携はどうですか？

事務局

救急情報・警察情報を望むところではありますが、その方の情報という形ではいただけないということが多いです。

何らかのかかわりがあった時に本人からの事情を聞かせていただき把握した際は、もちろん対応させていただきますが、未遂で終わったという形だけであると、町のほうに情報としては入ってこないのが現実です。

委員長

他にはいかがでしょうか。

委員

ボランティア連絡協議会の中には、「ぴんぽん」という訪問とか、「もしもし電話」とかで活動してらっしゃるので、そこから具体的に入ってくるとまた提言できるかもしれないし、会に持ち帰って自殺対策計画の検討をしておりますということと事例というのを委員会に紹介できるかもしれない。

今までは、具体的なそういう会議ではそういったことがあったのよと、絶え間なく高齢者のかたと接するという活動を皆さん長年の活動を続けてらっしゃるので、何か連携できたら。

委員長

ありがとうございます。活動のところから見えてくるようなこともございますので、連携をしながらというご意見でございますね。

他にはいかがでしょうか。

だいたいご意見が出たというところで、大山崎町の自殺対策計画第1期でございますが、先ほど修正点につきましては、「2地域自殺実態プロファイルにおける大山崎町の自殺の現状」の「1）地域の自殺の特徴」の「地域」を「本町」に変更ということで進めていくということよろしいでしょうか。ありがとうございます。では、計画の協議については、終わらせていただきます。